

自己点検・評価 報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
専門学校麻生医療福祉&観光カレッジ

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校麻生医療福祉&観光カレッジの2018年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2019年4月5日

校 長 富田 博之

自己点検・評価責任者

校長代行 亀谷 弘幸

目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像）	- 3 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像	- 5 -
	基準 2 学校運営	- 6 -
	基準 3 教育活動	- 7 -
	基準 4 学修成果	- 11 -
	基準 5 学生支援	- 13 -
	基準 6 教育環境	- 14 -
	基準 7 学生募集	- 16 -
	基準 8 財務	- 17 -
	基準 9 法令遵守	- 18 -
	基準 10 内部質保証	- 19 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 20 -
	基準 12 国際交流	- 21 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

【教育理念】

「自主創造教育」

先入観や偏見などに捉われず、自主的にいきいきと学び、グローバル視野を持った人材を育成します。

「実践教育・キャリア形成教育」

専門職としての福祉・医療・観光サービス業界に必要な知識・技能・態度を備えた人材を育成します。

【教育目標（育成人材像）】

ホテル・ブライダル科

ホテル・ブライダル業界の接客サービスに必要な専門的知識や技能、語学力を身につけ、更にホスピタリティーマインドを備えた人材を育成する

エアライン科

航空・鉄道・船舶業界の接客サービスに必要な語学力、専門知識を身につけ、更にホスピタリティーマインドを備えた人材を育成する

医事スペシャリスト科

診療報酬請求事務を含む医療事務に必要な専門科目を中心に学び、幅広い知識と豊かな人間性が必要とされる医療事務職員を養成する。また、患者に対する適切な接遇マナーや迅速なコンピュータオペレーション技術など基本的要素をすべて取り入れた総合カリキュラムでより高い社会人としてのスキルを持った人材を育成する

介護福祉科

- ・人間性・社会性・専門性を備えた福祉業界のリーダーとなる人材を育成する。
- ・介護実践の根拠を理解し、あらゆる場面に対応できる力を習得した人材を育成する。
- ・2年間の知識、技術を深く理解し、国家試験合格を目指す。

国際ビジネス科

将来IT分野、ホテル・ツーリズム分野、介護福祉分野に就くための基礎知識を修得し日本社会で活躍できる人材を育成する、またその知識を身につけるための日本語力を持った人材を育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 学校の教育理念、教育目標（育成人材像）の明確化と周知
- ② 教育活動の見直し： 業界の人材ニーズに沿った学修方法の検討
- ③ 教育力の向上に向けた取り組み： 教員の研修参加と授業見学の実施

2. 取り組み状況

- ① 本校では、「社会の変化に対応できる良識とスキル・知識を備え、卒業後も活躍できる人材の育成」を教育理念に掲げている。全学生が将来、対人援助・対人接客を仕事とするため、自分軸で物事を判断するのではなく、相手の立場になること、先入観や偏見に捉われないことが必要である。そのため、本校ではGCB教育のほか、グローバルな視野をもつために海外研修旅行に加え、短期・長期留学を奨励している。福祉・医療・観光サービス業界に必要な知識・技能・態度を備えた人材を育成するため、各学科では業界実習を在学中に複数回経験する体制を整えている。
- ② 業界企業や関連団体で構成される教育課程編成委員会と、年に2回の委員会を実施している。委員会では業界の現状や求められる人材像についての情報を共有すると共に、本校での教育内容を点検いただき、改善点や評価方法についての助言をいただいている。学修方法についても、学生が主体的に学ぶ方法を導入し、ディスカッションやシミュレーションを取り入れている。留学生に対して、言語理解の視点のみで評価を行わない等、今後受け入れに向けた基準の見直しを検討していく。
- ③ 教員全体の教育力向上のための授業見学は、新任の専任講師を対象に実施している。授業見学を実施後、フィードバックを行い改善のためのアドバイスを行い、その後、再度授業見学を行っている。また、スキルアップ研修や学外での勉強会・研修にも参加している。全教員の研修参加を可能とするために、2019年度は研修時間が確保できるような時間割やスケジューリングを行う。

3. 総括（成果と課題）

- ① 今年度の活動成果として、本校の教育理念・教育目標（人材育成像）ならびに、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3つのポリシーを見直し、明文化することができた。学内での周知を図るために、キックオフ、非常勤講師会の場で教職員と共有すると共に、学生には、2019年度学生便覧への掲載、新入生オリエンテーションで周知した。今後、学校構成員以外へ本校の教育理念・教育目標の周知を図るため、広報用パンフレットや学校概要説明会の資料等にも掲載していく。特に、職業実践専門課程の「学校関係者評価委員会」「教育課程編成委員会」においては説明のうえ、各委員へご理解いただく。
- ② 今年度は介護福祉士国家試験対策として、1年次より補講と学生の習熟度を考えた授業を実施した。診療報酬請求事務能力認定試験（医科）においても、習熟度別クラスによる授業を行うことで、学生の理解度に応じた環境で学ぶことができたため、次年度より高い合格率となり、成果を上げている。

次年度からは留学生専用の国際ビジネス科の学生が、本科へ進級することを考慮し、E-learningなどの教育ツールを利用した学習環境を整えていく。

- ③ 今年度は「発達障がい者の理解」「コーチング実践」などの研修に参加し、教員の指導力向上の機会を持った。昨今、発達障がいの可能性のある学生の対応が必要になり、専門知識の少ない教員にとっても大きな成果であった。次年度は、法人全体として教育力の向上を目指し、専門家による授業見学を全専任講師に実施予定である。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

- ・当該専門学校は、社会の変化に対応できる良識とスキル・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として、また一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会貢献できる人材=グローバルシティズンを育成することを目標として、教育活動、学校運営を行ってきた。
- ・建学精神に基づき、教育理念、目的及び育成人材像を定め、ルールブック、朝礼での唱和を通して、学校構成員に周知を図っている。また、ホームページに掲載することにより、社会への公表も行っている。学科ごとに、目的、育成人材像、目標を定め、学生便覧に掲載し、学生・保護者に対して明示している。
- ・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて、学科毎のカリキュラムポリシーを見直し、体系的に周知できるよう整備を行った。学生、保護者には、オープンキャンパスや、オリエンテーション導入時など、入学直後から浸透を促進していく。

【課題】

学校構成員（教員、職員、学生）及び関連業界に対して周知・徹底。

【今後の取組み】

「学生便覧」またはホームページ上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。職員に対しても、朝礼、定例会議等において周知を徹底する。
Web活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====

基準 2 学校運営

=====

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

- ・本校の運営方針は年度毎に策定し運営会議、経営会議の承認を得たのち、運営方針・事業計画書を教職員対象のキックオフミーティングで周知している。
- ・運営方針に沿った事業計画を策定しているか否かについては、関連部署との連携を図り、定期的な責任者会議を経て検証している。
- ・麻生塾としての運営会議、経営会議はもとより、学内においても定例会議を実施し、学校の理念に沿った運営方針や事業計画を教職員全員に周知している。また、リーダー会議や各系教務会議では、現状把握や問題解決のための具体的な取り組みを話し合っている。
- ・学内では学生情報や教職員の勤怠に至るまで情報システム化に取り組み、麻生塾システムで広報、入試、学籍、教務、就職など学校運営上必要な情報を一元管理している。勤怠システムでは、教職員の出退勤に関する管理行い業務の効率化に取り組んでいる。
- ・教職員の採用、人事給与に関する取扱いは、各規程等を整備し、学校法人として取りまとめて、適正に運用している。
- ・学校業務を支援する事務組織として、学生課、広報課、就職課それぞれに人員を配置し、事務機能の改善を図りながら、効率化を進めている。

【課題】

学校業務を支援する事務業務の整備。

【今後の取組み】

新年度より新たなシステムを導入するにあたり、学生に関する情報管理システム、業務処理システムを活用し、教育活動ならびに事務業務の改善をはかることで、業務の効率化と意欲・資質の向上の機会とする。法人本部と連携し、業務改善をめざす。職員の意欲向上のため、適性人数の配置、資質向上を図るため、SD研修を本部担当部署の指導のもと推進していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	A
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	A
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	A
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	B
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

=====

基準 3 教育活動

=====

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

- ・教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示している。また、教職員および学生に周知し、HPの学校情報を通して社会に公表している。
- ・教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方法（カリキュラムポリシー）を明示している。学校構成員（教職員および学生等）に周知している。学修方法や、評価方法についても具体的に示し、教育の目的、教育目標を達成できるようにしている。

【課題】

- ・ディプロマポリシーの改善。
- ・業界の人材ニーズに沿った人材育成のための学修方法の検討。

【今後の取組み】

業界の人材ニーズに関する意見を取り入れたカリキュラムを今後も引きつづき検証しつつ、業界に必要な力量を備えた人材育成を強化する。また、学校目標の一つとして、教職員の能力開発とそれに向けた改善活動を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

- ・教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。
- ・教育課程編成委員に就任されている企業等の方から業界のニーズを取り入れ、実践的な職業教育の観点に立った教育内容を提供している。
- ・専攻分野に関する企業・関係施設や業界団体と連携し、有識者・業界関係者の意見を取り入れた教育課程の編成を行っている。
- ・教育方法及び学習指導はシラバスに明示し、学校構成員に周知のうえ受講する学生に周知している。
- ・授業はシラバスに基づいて授業が展開されている。シラバスは学内において共有している。
- ・リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っている。また、教育目標に到達できるよう必要に応じて補習、課題等を課している。
- ・専門分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業と連携した実習・演習）は、事前研修、実習中指導、実習後振り返りと体系化されており、全学科で、実施している。
- ・キャリア教育を入学直後から行い、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成し、キャリア発展を促している。

【課題】

- ・E-learning プログラムを活用した学習。

【今後の取組み】

業界のグローバル化や業界ニーズにより育成する人材像は流動的に変化する状況を鑑み、学校関係者評価委員や教育課程編成委員である企業・業界団体の意見を取り入れ、業界ニーズに合った教育課程を編成・実施していく。

入学者に対し基礎学力テストや実施、その結果を経年分析し、学力不足の学生には「国語フォロー講座」を行っている。国語理解力の低い学生は、専門教科指導においても理解力が低いため、入学後の引き続き E-learning プログラムを活用した学習をすることが必要となっている。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	A

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

- ・教師アンケートを実施し、授業評価を実施しており、教員へのフィードバックも行っている。
- ・授業科目の目標に照らし、授業内容や授業方法の改善を図るための取り組みとして、学内でのスキルアップ研修や学外での関係科目の勉強会・研修に参加している。

【課題】

- ・教員全体の教育力向上のための授業見学や、教科勉強会の定期的の開催。

【今後の取り組み】

- ・教育力向上のために、学外の学識者や専門家による授業見学を、専任講師の授業で実施していき、授業運営を可視化し、授業方法の改善を図る。また、授業アンケートをもとに、改善を必要とする教員のガイダンスや授業見学を実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	B
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

- ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、学生に対して入学後のオリエンテーション等の機会を通じ、「学生便覧」「学生要覧（介護福祉科）」に明記されている事とその内容を説明している。
- ・成績評価・単位認定は、日常の学習状況と定期試験等及び授業出席状況を総合評価し、規程に基づいて客観的に決定している。
- ・各教科の学習目標に達していない学生に対しては、この状況を踏まえ補習や追加課題を課している。年度末に進級・卒業判定会議にて各規定に基づいて、適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

単位取得のためにどの程度まで補習や課題を課し、進級・卒業させるべきかの判定基準の見直しを考えている。科目ごとの評価方法、評価基準について、再検討を行っていく。また、留学生に対しても言語理解の視点のみで評価を行わない旨の、基準の見直しを行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

- ・専修学校設置基準、養成施設指定規則その他法令を遵守しており、教員要件、定員に対する法令上必要な人員を適切に配置している。
- ・教員の組織体制については、系毎にリーダーを置き、医療系、観光系、福祉系と3部門に分かれた組織体制を整備している。
- ・教員の専門性や指導力などの維持、資質向上のための方策を組織的、多方面に実施し、教職員及び組織の改善につなげている。
- ・教員に対して学生指導、教科指導についての学内・学外での研修等に参加し指導力向上に努めている。企業と連携した研修も行い、教員の指導力向上に繋がっている。

【課題】

全ての教職員の研修受講。

【今後の取組み】

業界関連の研修については参加者との勉強会実施し、共有の機会を増やすことを計画している。教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のため、研修等に参加できるような体制作りを行っていき、一人でも多くの教員が研修に参加できる環境をつくっていき、教職員の能力開発に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	A
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	B
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	B
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	B

=====
 基準 4 学修成果
 =====

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

- ・年度当初に示された事業計画書によって資格・検定・退学率に関する目標を共有し、全員の共通意識として
 いる。各学科において具体的な目標を設定し、組織的に取り組んでいる。
- ・資格取得率・資格試験は、昨年度に比べ合格率を上げた分野が多く、成果が上がっている。結果を分析し、
 学生支援の改善を行っている。
- ・資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの体系的な位置づけはあるものの、改善する余地がある。
- ・スクールカウンセラーや適性試験の結果を視野に入れた適切なガイダンスにより、退学率は、昨年度より改
 善している。今年度の結果を分析し、学生の特性や背景を考慮した指導を継続する。
- ・卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果については、企業アンケートなどにより就職担当
 者と教員で情報を共有し、それを踏まえた教育活動の改善に役立てるようにしている。
- ・卒業生の専門分野における社会的評価については、企業アンケートで在籍調査を行っている。

【課題】

- ・アクティブラーニングや、E-learning の検討

【今後の取組み】

- ・学修方法については、従来の講義、演習、実技等のほか、アクティブラーニングなどを含めた複合的な観点
 での手法を学ぶ研修等を計画する。
- ・卒業生アンケートを活用し、専門分野におけるキャリア形成への効果性を調査することを、就職担当者も含
 めて取り組んでいく。
- ・卒業後 1 年後、就職先へ訪問し在籍状況、配属部署や職務内容を把握し学内で共有しておりカリキュラム
 の改善に活用している。専門分野の社会的評価については、厳密に聞き取りする機会がないため、概略的な
 把握に留まっているので、今後方策を考えていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分 析し、就職指導・支援の改善を図っているか	B
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の 向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学 生支援の改善を図っているか。	A
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけ はあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減 の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。 また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	B
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	B

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

- ・在学時の学生支援としては、主に精神面、進路、経済面についての支援組織、環境整備を行っている。
- ・進路については、担任以外に就職担当者、有資格者（キャリアカウンセラー）が必要に応じた進路相談指導を行っている。
- ・学生相談に関する体制としては、担任による面談を定期的に行うほか、日常の声がけ、スクールカウンセラーによる相談を行っている。またハラスメント防止規程、ハラスメント委員会を設置し、学生が受けたハラスメントについて相談できる体制を整えている。
- ・経済的な支援については、学費分割納入制度や各種奨学金を運用し、有効に機能している。2015年度より「授業料減免制度」を設け、経済的困難者に対応している。
- ・学生の生活環境への支援としては、遠隔地から就学する学生からの要望があれば、住居の紹介を行っている。
- ・学生の健康管理を担う組織としては、保健室を整備し、学時と進級時は健康診断を全学生が受診している。また、感染症への対応として出校停止規程をもうけている。
- ・保護者と学生を交えた三者面談を全員に実施しており、面談記録をとっている。学習や学校生活状況など、必要に応じて保護者に報告しており、その内容はガイダンス記録にとどめている。
- ・卒業後の支援としては、同窓会組織として「校友会」を設置しており、2年に1回、校友会総会を開催している。また年に1回の校友会新聞の発行や、Facebook、Twitter、キャンパスブログにより卒業生に情報提供を行っている。
- ・学生の課外活動として、教職員が顧問となりクラブ活動をもうけている。また、ボランティア活動については学生に周知し、危機管理としてボランティア保険に学生は加入している。

【課題】

支援の有効性についての客観的な検証。

【今後の取組み】

いじめを含めた精神的支援体制については、学生からの報告でいじめを認識できるため、クラス担任を含め、複数の教職員がクラス状況を把握し、問題解決に迅速に対応できる体制を更に強化していく。

2019年度より留学生が入学するため、日本滞在に関わる手続きや、生活環境への適応を促すアドバイス、自治体からの留学生への支援情報などを国際交流センターと協力し、適正に提供していく。

卒業満足度調査を実施している。その情報を経年的に分析し、学生満足度が比較的低い分野への支援計画を立てることが必要である。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	A
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	A
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	A
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	A
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

- ・専修学校設置基準、養成施設指定規則の則りまた、教育上の必要性に対応した施設・設備として実習室や演習室を整備しており、定期的に点検・管理を行っている。
- ・各学科の学修目標に沿った参考図書や関連図書を揃えた図書室を設置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。また、視聴覚教材についても学修に必要な備品が使用できるよう整備している。
- ・防災・防犯設備について、保守点検業者を通じ確実に整備点検を実施している。

【課題】

図書室内に業界関連書籍等を配架している。図書管理台帳を整備し、担当者が棚卸しなどを行っているが、書籍の更新が必要である。

【今後の取組み】

実習用設備、備品、教具の管理については、該当学科が学内データとして管理している。年に1回定期的に点検しているが、更新計画について今後改善の必要がる。今後は計画的に更新計画にのっとり、整備を行っている。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	A
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	A
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	A

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

・学習目的に沿った実習施設を整備し、実践的な学びができる環境を整えている。学外実習は、担当者と受け入れ企業との間で覚書や契約書を事前に交わし、研修内容や安全性について確認を行っている。また、実習前研修、実習中の巡回や面談指導を行い、実習後にも振り返りや報告会を実施する体制を整備している。

・学校に置ける安元管理の整備として、危機管理マニュアルを作成し教職員で共有している。各施設の担当者と設備の責任者を置き、定期的に安全・点検を行っている。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

学校における安全点検については、防災訓練を定期的に行っている。台風、大雨や地震対策の訓練など、近年の自然災害への安全対策を今後は計画していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

- ・学生募集については、アドミッションポリシーや学費、募集定員などを募集要項や Web サイトにて公表し、学校としての学生受け入れの方針を明らかにしている。
- ・募集活動において、資格・検定などの結果を報告するとともに、就職実績についても保護者をはじめ参加者にパンフレット等を配布している。
- ・入学者選考は、公表している選抜方法に則り、公平かつ適切に実施している。オープンキャンパスでは、希望者に特待試験問題(過年度)を提供している。
- ・入学者の選抜実施方法や選考基準を設け、この基準に沿って複数の教職員で選考を行っている。
- ・学生納付金は妥当性を理事会等で審議・決定し、募集要項に明示している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

社会人ならびに留学生への来校、学校説明会、ガイダンスを促進する。業界で活躍する卒業生や、留学生の活躍の様子を、さまざまなメディアを通して紹介する機会を増やす。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

- ・年度予算を作成し、設備投資予算等を含め本部にて承認している。毎月、勘定項目および予算の執行状況を確認し報告している。会計監査（内部・外部）体制については、学校法人が公共性を担保するために、会計監査法人による監査と監事に寄る監査体制を敷いて適切に運営している。毎年度公認会計士による監査を受け、監査報告書による監査結果を得ている。
- ・毎年、予算編成・計画立案に関するヒアリング後、予算計画を立てている。予算執行に伴う効果を管理票を元に分析・検証している。
- ・私立学校法及び寄付行為に基づき、会計監査を実施している。監査報告書を作成し、理事会へ提出している。
- ・財産目録、事業報告書については、利害関係者は閲覧することが可能な体制になっている。監査報告書、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書は Web 上で公開している。固定資産管理運用基準を設け、その基準に従って運用している。

【課題】

少子化の影響を受け、年度による入学生の数に偏りがある。

【今後の取組み】

固定資産管理運用基準を設け、その基準に従って運用しているが、除却対象資産の洗い出しを完全に終了できていないため、今後は除却資産の洗い出しをする予定である。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	A
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	A
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	A

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

- ・学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行っている。法令遵守に関する啓発では、職員に対して、定例会議等で周知徹底を図っている。法令に関する研修において、知識の習得に努めている。
- ・毎年度、諸規定は定期的に整備し、適切に運用している。
- ・法令等遵守に関する啓蒙や研修等が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。
- ・法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われて、法令等遵守義務や違反に対する処分等が、規程の中で明確にされたり、法令遵守違反等に対しての調査・報告及び再発防止策等がなされている。

【課題】

法令に関する情報更新が教職員全てに熟知されているかを確認する機会の設定。

【今後の取組み】

法令の遵守については、引き続き適正な運営を図るためにも、会議で周知徹底を図り、誤りのないよう努めていきたい。あわせて、各種法令の閲読をとおして、その内容の吟味と確認を促していきたい。
 教職員に対しては、「コンプライアンス」感覚を磨くためにも、相互の確認と点検の重要性を認識させ、規定に基づく業務の徹底を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

=====
 基準 10 内部質保証
 =====

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

- ・毎年度、定期的に自己点検・自己点検評価を行い実施結果に基づき業務等の改革・改善を行うことを基本方針とし専門学校の質保証・向上への取組みを行っている。
- ・自己点検・評価については、企業関係者や地域住民、保護者、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者評価委員会で報告している。また、改善項目については、委員の意見を取り入れた改善を行っている。
- ・自己点検・評価報告書を作成後、学校関係者評価委員会で報告を行い改善案などの意見を取り入れ、承諾を得た後、学校関係者評価報告書をまとめ Web サイト上で公開している。

【課題】

特になし

【今後の取組み】

評価基準や項目を明文化し、全教職員が統一した評価基準で点検を行うよう今後も継続を図る。
 自己点検・評価は全教職員が行っており、業務改善意識が定着している。現状を的確に把握し、必要点は早急に改善し、課題解決を行っていくことが重要であると思料する。
 自己点検や自己評価の過程で、徹底した点検を心掛け、事前防止を図るとともにその運用とに細心の注意を払っていきたい。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====
基準 1 1 社会貢献・地域貢献
=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

・地域・施設への貢献、学びの還元を意図し、学校教育内容の特徴を行かした連携を図りながら、学生のボランティア活動や職業教育に係る活動を推奨している。施設やNPO 法人、障害児施設への参加はもちろん、小学校訪問なども積極的に取り組んでいる。

【課題】

・多種多様なボランティア依頼があるため、参加意義や目標について学生への周知・徹底。

【今後の取組み】

ボランティア情報を可能な限り年度のはじめ、学期の初めに集約するようにし、一人でも多くの学生がスケジュールを把握し、参加できる環境づくりを行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	B

=====
基準 1 2 国際交流
=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

- ・国際交流センターの協力を得て、留学生に関する在籍管理、相談体制を整備している。
- ・短期、長期留学など本校独自の留学プログラムを運営し、学生ならびに保護者に説明している。受け入れ先の学校については、国際交流センターの職員が視察し教育環境、生活環境ならびに治安についても確認を行った機関に限定している。

【課題】

短期留学についての参加時期。

【今後の取組み】

今後、より多くの留学生の受入が見込まれるため、教室ならびに常勤・非常勤講師の受け入れ態勢を整備する必要がある。留学生に関わる相談内容に応じて国際交流センターの指示を受けながら、より良い支援ができる体制を整えていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	A
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	B
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	A